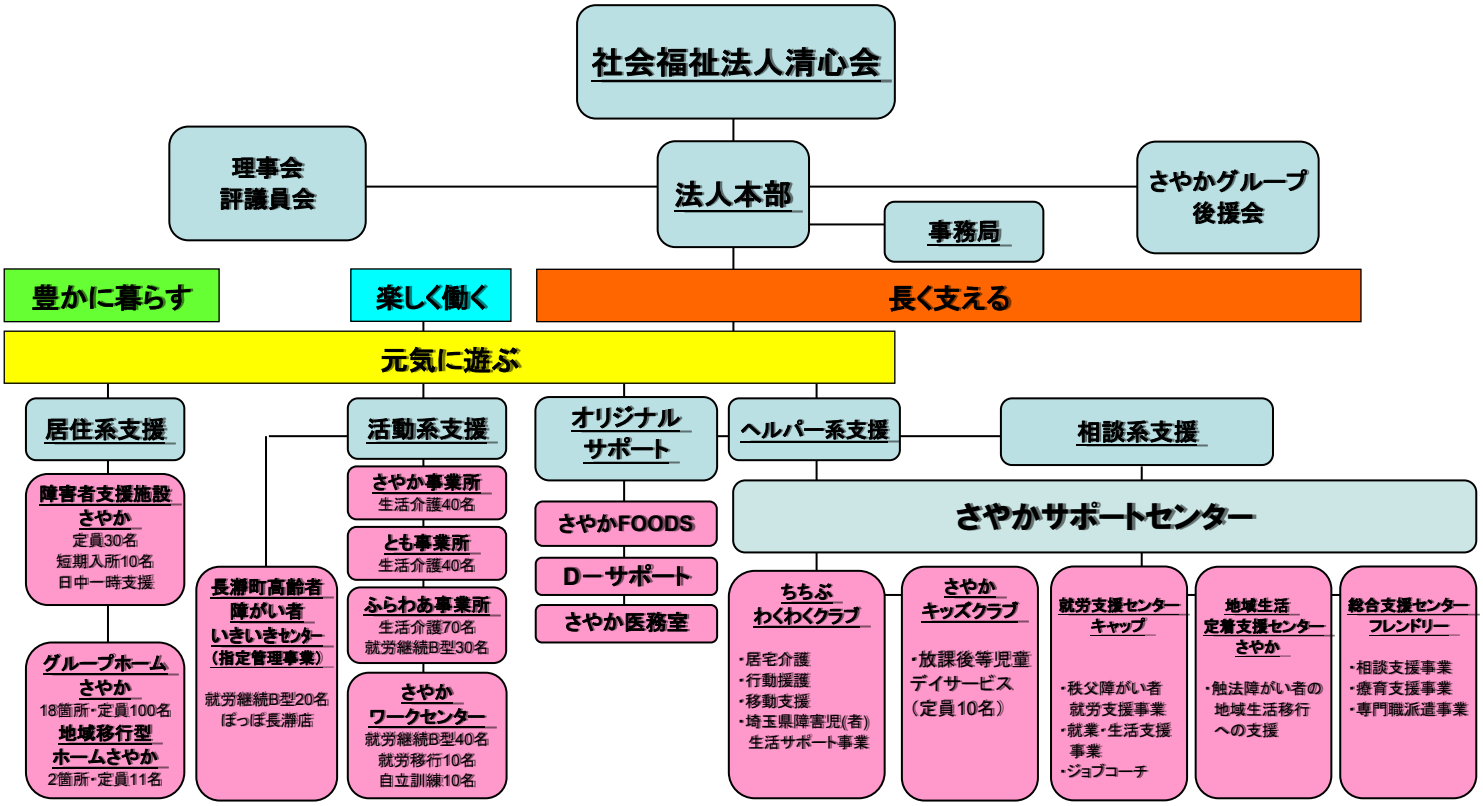
「地域に必要とされる社会福祉法人を目指して」

昨今の福祉情勢において、私ども社会福祉法人に求められている内容は、確実に変化してきていると感じます。平成24年から施行された障害者虐待防止法、平成25年に批准された障害者権利条約、平成28年度から施行される障害者差別解消法など、権利擁護の視点から求められるものは当然ですが、ここ数年は、社会福祉法人の在り方そのものが議論されるようになってきました。

障がい福祉分野においても、福祉サービスが契約によって提供される制度になり、多様な事業者が参入、おのずと福祉市場は、それまでの社会福祉法人が社会福祉事業の主たる担い手としての位置づけから、結果として様々な経営主体が混在する状況にあります。

こうした経緯の中、今、社会福祉法人としての役割の明確化が求められ、従来からの福祉サービス供給確保の中心的役割のほか、他の事業体では対応困難な福祉ニーズに対応し、安定かつ継続的なサービスを創意工夫して、自主的に取り組むことを「地域公益活動」と言う名のもとに、地域において、社会福祉法人が本来持つべき自主性、自律性を回復する取り組みが期待されているものと理解しています。

平成27年4月　社会福祉法人清心会　理事長　新井兄三郎



社会福祉法人清心会　さやかグループ　〒368-0056　埼玉県秩父市寺尾2825
TEL0494-24-9951(代)　FAX0494-25-3347　E-mail　info-sayaka@sayaka.or.jp
http://www.sayaka.or.jp　Facebook　www.facebook.com/sayaka.group

キーワードは「地域の中で」

豊かに暮らす

①入所施設の考え方　～ 入所施設からホームへ 全ての入所者の地域移行を目指します ～

施設入所支援：定員30名+短期入所10名(併設型) 入所施設の一部を地域移行型ホームとし、地域移行を活性化します。
長期入所利用者中心から短期入所利用者中心の施設へ。緊急対応時の役割としての施設機能は維持していきます。

②GHの考え方　～ 地域に根差した、地域に溶け込んだホームであるために ～

地域行事への積極参加、地域の社会資源を積極的に活用します。
ホーム生活から先の暮らしの選択肢は十人十色で良いと考えます。その人が希望する暮らしを全面的に応援します。
例)ずっと今のホームで暮らしたい。今より新しいホームで暮らしたい。仲のよい人と同じホームで暮らしたい。実家に戻りたい。
ホームを出て、単身で暮らしたい。好きな人と暮らしたい。etc・・・　障がい程度、目標に合わせた居住ホームを設定します。

③ささえる支援との連携について

近年、居住系サービスの地域化に伴い、以前にも増してささえる支援との連携強化の必要性が高まってきています。特に総合支援のフレンドリー・就労支援のキャップ・ヘルパー系支援のわくわくクラブなどとの連携は不可欠です。また、短期入所・日中一時支援等、「くらす」部門の中に支える機能が入り、その密接さを物語っています。

長くささえる

①相談支援機関　フレンドリー・キャップ・定着支援センターさやか

当法人では、国・県・市町の委託を受け、「総合生活相談のフレンドリー」「就労相談のキャップ」「定着支援相談のさやか」を運営しております。様々な相談をお受けして、必要に応じ関係機関と連携をとりながら、迅速な問題・課題解決に努めております。

②ささえるサービス

相談支援機関と同じく、地域生活を支えるために直接支援サービスは不可欠です。現在、当法人では、短期入所・日中一時支援・居宅介護・行動援護・移動支援・配食サービス等を実施しております。これらのサービスの需要は年々増加しています。

③本人活動支援　日中活動系・居住系のサービスの中に本人の会を作り、本人主体の生活・活動が営めるよう支援します。

日中活動の場（さやか・ふらわあ・とも・さやかワークセンター・ぽっぽ長瀞）

元気に遊ぶ いきいき活動

クラブ活動（陶芸・スポーツ・郷土芸能・札所めぐり・書道教室・アート教室）映画鑑賞会
休日レク・ミニコンサート(毎月1回・日曜日）ダンス教室(毎週木曜日・夜間)

生活介護
もも組･もみじ・かえで(さやか)
落ち着いた環境の中で
ゆとりのある活動を行います。
デイサービス要素をふんだんに
取り入れた活動班です。
・ウォーキング・機能訓練
・レクレーション・軽作業
・お花教室・お茶教室

生活介護
ちゃんす・さくら（ふらわあ）
一人ひとりの個性を大切にし、
メンタルケアに重点を置きつつ、
様々な可能性を広げられるよう
楽しく支援を行なっています。
・ウォーキング・各種クラブ
・ぼかし、石鹸、手芸品作り
・食堂清掃、環境整備

生活介護
と　も・ぎんなん
日常生活支援と余暇活動に
力点を置き、出来る事、楽しい事
を一つでも増やせるよう、工夫をし
ながら支援を行っています。
重複障がいの方も多いです。
・ウォーキング・機能訓練
・各種クラブ　　サークル

生活介護
あぐり（さやか）
活発な利用者が多く、屋外での活動を中心におこなっています。
重度の方が多い活動班ですが、様々な工夫をしながら活動に集中できる環境を作っています。
・聖地公園、清雲寺墓地清掃
・羊山公園清掃業務・腐葉土作り
・ウォーキング・レクレーション

生活介護
とらい・エール（ふらわあ）
仕事への意識を持ちながらも、レクレーション的な活動を取り入れ、メリハリのある支援を行ないます。
・張子作業　・祭り製品の製造
・請負作業
・奉仕作業を兼ねたウォーキング
・聖地公園、清雲寺墓地清掃

就労継続Ｂ型
外部作業【施設外就労】(ワークセンター)

一般企業の中で作業を行う事で、仕事に対する責任感・緊張感・やりがいを感じ、意欲向上に繋がるよう支援を行います。
挨拶や時間厳守など社会的マナーを習得します。
公共交通機関の利用を促進し、自主通勤を目指します。
また、必要な知識・マナーを支援します。
企業の就業時間に耐えうる体力精神力を身につけます。
・浅井建築設計事務所　　・ウッディーコイケ

就労継続Ｂ型
ぽっぽ（ふらわあ）・ぽっぽ長瀞店
(就労継続Ｂ型)
パン・ラスクの製造に積極的に関わり、働く意識が継続できるよう支援します。
挨拶・社会的マナー等を習得します。
働いた対価としてより多くの工賃が還元できるよう売れる商品作りに努めます。
活動系事業所の昼食に提供するカレーライスと、外部販売用のカレー弁当を毎日製造しています。女性利用者を中心に、より質の高い美味しいカレーライス作りに励んでおります。就労継続Ａ型を目指している活動班です。

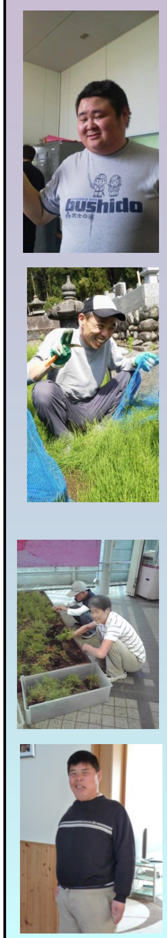
就労継続Ｂ型ＡＡＯ【安全・安心・おいしい】農園（ワークセンター）
①農業を通じたソーシャルファーム、地域の方たちとの連携・協働を目指します。
②障がい程度・種別の垣根を越え、それぞれの能力に適した作業を提供します。
③生産した農作物は、法人給食やぽっぽでの二次加工品として利用していきます。
④二次加工品は借金なし大豆を使用した「味噌」と、農園で生産した野菜等を使用した「キムチ・漬物」を中心に生産します。

楽しく働く

自立訓練
（ワークセンター）
特別支援学校の卒業生や、若年の方で、就労系サービス・企業就労を目指す方たちが利用しています。
2年間という有期限の中で、社会で通用する体力・精神力・一般常識を養っていきます。

就労移行支援　（ワークセンター）
2年間の有期限の中で、必要なスキルを身につけ、企業就労を実現する事を目標とします。
企業実習等もこまめに取り入れ、より企業に近い雰囲気の中でトレーニングを行います。

一人ひとりの笑顔のために・・・



さやかグループ利用登録者数

居住系	男性	女性	合計
さやか	9	5	14
GHさやか	54	37	91
移行型さやか	4	1	5
合計	67	43	110

活動系	男性	女性	合計
さやか生活	32	14	46
ふらわあ生活	42	21	63
ふらわあ就B	8	13	21
と も生活	24	17	41
ワークC就B	27	5	32
ワークC自立	1	1	2
ワークC移行	4	1	5
長瀞ぽっぽ就B	1	6	7
合計	139	78	217

さやかグループ職員数

内訳	男性	女性	合計
正規	43	40	83
契約(社保加入)	16	42	58
契約(社保未加入)	15	76	91
派遣・シルバー	0	10	10
合計	74	168	242

さやかサポートセンター登録者	男性	女性	合計
わくわく	141	83	224
フレンドリー	198	120	318
キャップ	223	126	349
合計	562	329	891

平成27年6月1日現在